

## 千鳥ヶ淵の環境再生に関する勉強会の開催について

### 1 目的

千鳥ヶ淵は、皇居外苑の濠のうち北西部に位置する濠であり、皇居や千鳥ヶ淵戦没者墓苑にも隣接する我が国の象徴的な場に位置している。一方で、千鳥ヶ淵は、皇居外苑の濠の中では最も公園利用が進み、地域とのつながりの深い濠であり、また、周囲を緑に囲まれ、自然環境や景観にも優れた濠である。

しかし、昭和 40 年代以降水質の悪化が進みアオコが度々大量発生するほか、周辺の都市環境の変化、利用形態の変化等に伴う環境の変化により、本来の千鳥ヶ淵の持つ特性が損なわれつつある状況にある。

これに対し、今後、東京都下水道の改善による雨天時の下水越流の防止策がとられ、また、環境省も本年 3 月に策定した水質改善計画に基づき濠水浄化施設の改善などの対策を講じることで、水質の改善が図られる予定である。

しかし、千鳥ヶ淵の水質が著しく悪化しており自然環境等にも大きな影響を生じていることから、環境の再生には、水質の改善対策のみならず、より積極的な取組が重要と考えられる。また、濠の水量、景観、環境教育など周辺環境の変化、利用の変化に応じて検討すべき事項も多い。

これらの課題については 千鳥ヶ淵の周辺地域も関係しており、また、環境省以外の機関も関連している。このため、千鳥ヶ淵の再生・創造には、周辺地域も含め、関係者と連携して取り組むことが重要である。

以上を踏まえ、千鳥ヶ淵の目指すべき将来像とその実現に向けた道筋について関係者間で共有するために、千鳥ヶ淵の環境改善に関する構想（千鳥ヶ淵再生プラン：仮称）を作成することとし、その準備段階の議論を行うために勉強会を開催するものである。

### 2 勉強会で取り扱う事項

千鳥ヶ淵の環境の再生、改善に関する事項のうち、次に挙げる事項。

千鳥ヶ淵の再生、改善の目標像に関すること

上記 の目標像の具体化に係る取組に関すること

本勉強会では、上記 、 について、事務局、出席者の提示した資料をもとに議論を行ない、千鳥ヶ淵再生プランの作成のための論点の整理を行う。

( 議論の留意点 )

議論は、千鳥ヶ淵での具体的な取組の実施を想定に、実現可能性に留意して行う。

濠全体の水質については、現在予定されている対策により改善される見込みであり、これを前提として議論を行う。

3 勉強会の運営について

本勉強会は、環境省皇居外苑管理事務所が主催し、勉強会の構成は、主催者が要請した学識者、関係機関・団体で構成する。勉強会は、公開で行うこととする。

本勉強会の事務局は、環境省皇居外苑事務所及び業務請負者である(株)メッツ研究所とする。

4 勉強会の開催回数

本勉強会は平成 22 年度内に 3 回程度実施する予定。

東日本大震災の影響で、第 3 回目を平成 23 年 5 月に延期

勉強会参画者名簿 ( H23 年 1 月時点のもの )

【学識者(敬称略)】

所 属 等	氏 名
東京大学 先端科学技術研究センター教授	西村幸夫
埼玉大学大学院教授	浅枝 隆
(財)日本生態系協会事務局長	関 健志

【行政・関係機関等】

千代田区
(財)国民公園協会
千代田区観光協会
株式会社 エフエム東京 (傍聴者より参加)

【オブザーバー】

東京都(第一建設事務所)
--------------

【事務局】

環境省皇居外苑管理事務所	主催者
(株)メッツ研究所	業務請負者

